

解答

②・⑤・⑦

解答解説

① 不正解

選択肢の和訳

情報をより効率的に保存し共有できるようになったため、デジタル文章はすでに、ほとんどの学校や職場で手書きを完全に不要なものにした。

本文の対応箇所

第 1 段落

Digital writing is fast, convenient, and easy to organize.

「デジタル文章は速く、便利で、整理しやすい。」

For these reasons, some people believe that handwriting will eventually become unnecessary.

「こうした理由から、手書きはやがて不要になると考える人もいる。」

However, researchers have begun to examine whether writing by hand offers certain benefits that typing does not always provide.

「しかし、研究者たちは、手書きにはタイピングが必ずしも与えない利点があるのかを調べ始めている。」

解説

本文では、手書きが不要になるというのは some people「一部の人々」の考えとして紹介されているだけである。筆者自身は、手書きにはタイピングにはない利点がある可能性を示している。したがって、has already made handwriting completely unnecessary「すでに手書きを完全に不要にした」が誤り。

② 正解

選択肢の和訳

手書きはタイピングより遅いため、生徒は重要な情報を選び、より簡潔な形で表現することを求められる場合がある。

本文の対応箇所

第 2 段落

Handwriting is slower, so students must often select the most important information and express it in shorter or simpler language.

「手書きはより遅いため、生徒はしばしば最も重要な情報を選び、それをより短く、またはより簡単な言葉で表現しなければならない。」

解説

選択肢の choose important information は本文の select the most important information に対応している。また、express it in a more concise form は express it in shorter or simpler language の言い換えである。したがって本文と一致する。

③ 不正解

選択肢の和訳

本文は、タイピングでノートを取る生徒は、教師の言葉を変えずにすべての詳細を記録できるため、通常、授業をより深く理解すると述べている。

本文の対応箇所

第 2 段落

Because typing is fast, students may copy a teacher's words almost exactly without thinking carefully about their meaning.

「タイピングは速いため、生徒は教師の言葉の意味について注意深く考えることなく、ほとんどそのまま書き写す場合がある。」

第 3 段落

This process of selecting and reorganizing information may support understanding.

「情報を選び、再構成するこの過程は、理解を助ける可能性がある。」

解説

本文では、教師の言葉をほぼそのまま記録することが、深い理解につながるとは述べられていない。むしろ、意味を十分に考えずに写してしまうという問題点が指摘

WPM Over 150 を目指す [500 語レベル]

されている。理解を助けるのは、情報を選択し再構成する過程である。したがって不一致。

④ 不正解

選択肢の和訳

手書きのノートが記憶を改善する主な理由は、より正確な情報を含み、すべての学習者が同じ整理形式を用いるからである。

本文の対応箇所

第 4 段落

Handwriting may also help people remember information because it involves several actions at the same time.

「手書きは、複数の動作を同時に伴うため、情報を覚える助けになる可能性もある。」

In addition, handwritten notes often contain arrows, circles, small drawings, and changes in size or position.

「さらに、手書きのノートには、矢印、丸印、小さな絵、文字の大きさや位置の変化などが含まれることが多い。」

Such personal features may make the information easier to recognize later.

「このような個人的な特徴によって、後で情報を認識しやすくなる可能性がある。」

解説

本文では、手書きが記憶を助ける理由として、手の動き、文字の形成、視覚的確認などの複数の活動が挙げられている。また、手書きのノートには personal features「個人的な特徴」があるため、すべての学習者が同じ形式を用いるわけではない。したがって不一致。

⑤ 正解

選択肢の和訳

身体的な困難がある人や、情報を簡単に編集、検索、共有する必要がある人にとっては、手書きよりもタイピングのほうが適している場合がある。

本文の対応箇所

第 5 段落

People with certain physical difficulties may find handwriting painful or extremely slow.

「特定の身体的な困難を抱える人は、手書きを苦痛に感じたり、非常に遅いと感じたりする場合がある。」

Digital notes are also easier to edit, store, search, and share.

「デジタルノートは、編集、保存、検索、共有もより簡単である。」

解説

選択肢の people who have physical difficulties は本文の People with certain physical difficulties に対応している。また、edit, search, and share information easily も、本文の easier to edit, store, search, and share と一致する。したがって正解。

⑥ 不正解

選択肢の和訳

本文で紹介された研究によると、ノートをタイピングした生徒は、事実に関する問題と考え同士の関係を問う問題の両方で、成績が悪かった。

本文の対応箇所

第 6 段落

In one study, students who typed notes performed well when answering questions about simple facts.

「ある研究では、ノートをタイピングした生徒は、単純な事実についての問題に答える際には良い成績を収めた。」

However, students who wrote by hand often did better on questions that required them to explain relationships between ideas.

「しかし、手書きでノートを取った生徒は、考え同士の関係を説明する必要がある問題で、より良い成績を収めることが多かった。」

解説

WPM Over 150 を目指す [500 語レベル]

タイピングした生徒は、単純な事実を問う問題では performed well「良い成績を収めた」と述べられている。したがって、両方の種類の問題で performed poorly「成績が悪かった」とする選択肢は誤り。

⑦ 正解

選択肢の和訳

一部の教師は、生徒が両方の方法の異なる長所を生かせるように、手書きとタイピングを組み合わせることを勧めている。

本文の対応箇所

第 7 段落

Some teachers therefore encourage students to combine the two methods.

「そのため、一部の教師は、生徒に二つの方法を組み合わせよう勧めている。」

The purpose is not to choose one method for every situation but to use each tool according to its strengths.

「目的は、あらゆる状況で一つの方法を選ぶことなく、それぞれの道具をその長所に応じて用いることである。」

解説

選択肢の combining handwriting and typing は本文の combine the two methods に対応している。また、benefit from the different strengths of both methods は use each tool according to its strengths の言い換えである。したがって本文と一致する。

⑧ 不正解

選択肢の和訳

筆者は、現代の技術は通常、生徒が自立して考えることを妨げるため、伝統的な方法は常に守られるべきだと結論づけている。

本文の対応箇所

第 8 段落

New technology can make learning more efficient, but efficiency is not the only goal.

「新しい技術は学習をより効率的にすることができるが、効率だけが唯一の目標ではない。」

At the same time, an older method should not be protected simply because it is traditional.

「同時に、古い方法は、それが伝統的であるというだけの理由で守られるべきではない。」

The most useful question is not whether handwriting or typing is universally better. 「最も有益な問いは、手書きとタイピングのどちらが普遍的に優れているかではない。」

解説

本文では、伝統的な方法を常に守るべきだとは述べられていない。むしろ、古い方法を単に伝統的だからという理由で守るべきではないと明確に述べている。また、現代の技術そのものを否定しているわけでもない。したがって不一致。

全訳

手書きで学ぶことの価値

学校や職場では、デジタル機器が多くの伝統的な道具に急速に取って代わっている。生徒はノートパソコンやタブレットでノートを取ることが多く、会社員は共有のオンライン文書に考えを記録している。デジタルで文章を書くことは速く、便利で、整理もしやすい。ノートは数秒のうちに検索、コピー、修正、共有することができる。こうした理由から、手書きはやがて不要になると考える人もいる。しかし、研究者たちは、手書きにはタイピングが必ずしも与えない特定の利点があるのかを調べ始めている。

重要な違いの一つは、速さに関係している。ほとんどの人は、手で書くよりも速くタイピングすることができる。一見すると、このことによってタイピングのほうが優れた方法であるように思える。ノートパソコンを使う生徒は、多くの細部を逃すことなく、大量の情報を記録できる。しかし、この利点が思いがけない問題を生み出す

WPM Over 150 を目指す [500 語レベル]

可能性がある。タイピングは速いため、生徒は教師の言葉の意味を注意深く考えることなく、ほとんどそのまま書き写す場合がある。手書きはより遅いので、生徒はしばしば最も重要な情報を選び、それをより短く、またはより簡単な言葉で表現しなければならない。

情報を選び、再構成するこの過程は、理解を助ける可能性がある。生徒が何を書き留めるかを決めるとき、要点を見極め、それをそれほど重要ではない細部と区別し、すでに持っている知識と結び付けなければならない。この意味で、手書きでノートを取ることは、単なる身体的活動ではない。それは能動的に考える一つの形になり得る。いくつかの研究では、手書きでノートを取った生徒は、タイピングした生徒と同じ程度、または場合によってはそれ以上に、基本的な事実を記憶し、全体的な考えを理解していることが明らかになっている。

手書きは、複数の動作を同時に伴うため、情報を覚える助けになる可能性もある。書く人は、手の動きを調整し、文字を形作り、紙の上に現れる言葉を見て、情報をどこに配置するかを決めなければならない。こうした活動は、身体の動きと記憶との間に、より強いつながりを生み出す可能性がある。さらに、手書きのノートには、矢印、丸印、小さな絵、文字の大きさや位置の変化などが含まれることが多い。このような個人的な特徴によって、後で情報を認識しやすくなる可能性がある。

しかし、手書きが常に優れていると結論づけるのは誤りである。タイピングには、多くの状況ではっきりとした利点がある。手書きが苦手な生徒は、文字を形作ることによりにも多くの労力を費やし、授業を理解するための注意力がほとんど残らない場合がある。特定の身体的な困難を抱える人は、手書きを苦痛に感じたり、非常に遅いと感じたりする場合もある。デジタルノートは、編集、保存、検索、共有もより簡単である。生徒が共同でプロジェクトに取り組む場合には、複数の別々

のノートよりも、共有のオンライン文書のほうがはるかに実用的であるかもしれない。

課題の性質も重要である。目的が、速い講義の内容を正確に記録することであるなら、タイピングのほうが効果的な場合がある。目的が、考えを整理したり、議論を要約したり、試験の準備をしたりすることであれば、手書きのほうが大きな価値を持つかもしれない。ある研究では、ノートにタイピングした生徒は、単純な事実についての問題に答える際には良い成績を収めた。しかし、手書きでノートを取った生徒は、考え同士の関係を説明する必要がある問題で、より良い成績を収めることが多かった。

そのため、一部の教師は、生徒に二つの方法を組み合わせよう勧めている。生徒は、授業中にまず手書きで短いノートを取り、後でそれをより整理された要約としてタイピングしてもよい。この二つ目の段階によって、生徒は情報を見直し、修正し、結び付ける機会をもう一度得られる。あるいは、授業中に詳しいノートをタイピングし、その後で手書きの図や単語カードを作ることでもできる。目的は、あらゆる状況で一つの方法を選ぶことではなく、それぞれの道具をその長所に応じて用いることである。

手書きとタイピングをめぐる議論は、教育におけるより広い問題を反映している。新しい技術は学習をより効率的にすることができるが、効率だけが唯一の目標ではない。時間を節約する方法が、必ずしもより深い理解を生み出すとは限らない。同時に、古い方法は、それが伝統的であるというだけの理由で守られるべきではない。最も有益な問いは、手書きとタイピングのどちらが普遍的に優れているかではない。それぞれの方法が、学習者がより効果的に考え、記憶し、伝えるために、どのように役立つかということである。